

ヒトの影響を大きくうけている場所の外来植物

1. 研究の動機

現在、外来種(植物)の種数や被度などが私たちが暮らす鹿児島県霧島市国分平野において、増加し続けているのではないかと気づき、在来種にも影響を及ぼすことが予想されたのでこの研究をすることにしました。

2. 植物の調査方法

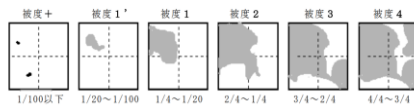
方形区法(コドラート法)による調査の方法

1 長さ1mの角材を4本用意し、調査しようとする植物群落に正方形を置く。これを、方形区という。

2 方形区内の全ての植物の種名と被度、高さを測定し、記録する。

①種名... 方形区内に生えている植物の種名を図鑑で調べる。

②被度... 種類別に方形区内面積(1㎡)の何%を占めているかを、被度階級(+、1', 1~4)で示す。



3. 調査①

8月20日・9月13日に植物の種類と被度を調査した。

場所 大隅国分寺跡附宮田ケ岡瓦窯跡(北緯31度44分 東経130度46分)ここを調査地①とします。

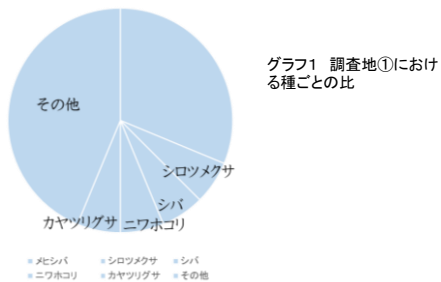
◎調査方法

20m×20mの方形記区を作りその中に生えている植物の調査をした。

※調査地①は、一か月に一回手入れされている。

4. 結果①

調査を行うと40種の植物を見つけた。



40種のうち13種の外来種を見つけた。

5. 調査②

10月4日に国分寺跡とほぼ同経緯度の国分高等学校のプール跡の植物を調査した。(北緯31度44分 東経130度46分)ここを調査地②とする。

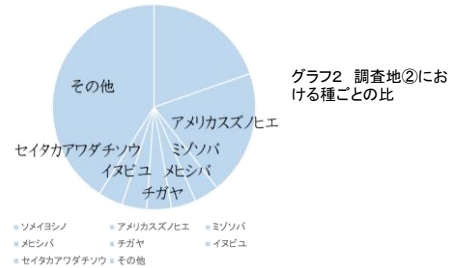
◎調査方法

5m×80mの長方形を作りその中に生えている植物の調査をした。

※調査地②は、平成9年に取り壊され、約20年間放置されている土地である。

6. 結果②

調査を行うと60種の植物を見つけた。



60種のうち、15種の外来種を見つけた。

7. 現時点までの結果

調査地①と調査地②を比べると、種数が②が1.2倍多く、その中で、外来種の種数も1.5倍多かった。調査地②は、外来種(アメリカスズメノヒエやセイタカアワダチソウ)の被度が高い。

8. 考察

調査地①のトレニアやスノーボールは家庭園芸などの種が飛んできたのではないかと考えられる。これらが、調査地②に現れないのは、調査地②は①に比べて安定しており、生えている植物の高さが高いので地面に近いところが暗く、トレニアやスノーボールの芽生えが育ちにくいと考えられる。

また、スペアミントは、違う要素により侵入したことが期待される。芳香があるので、アレロパシー効果を持つ植物である可能性も高い。

9. 今後の課題

典型的な植物の生えている場所をさがし、さらに比較検討し、今回見つけた外来種の特徴を深く学んで、より適切な駆除方法を考えていく。

そして、被害についても調べるために、近所の農家の方などにインタビューを行う。

10. 参考文献

<http://ameblo.jp> ブラジルコミカンソウとコミカンソウ
<http://www.pref.kagoshima.jp> 鹿児島県外来種リスト
https://www.gifu-net.ed.jp/ssd/sien/gakuryokusougou_suisin/koutokugakkou/koutokuH22/11nougyouH22/syokuseityousa1.pdf 植物群落の調査(植生調査)

11. 謝辞

本研究を進めるにあたり、霧島市教育委員会から国分寺跡の調査許可をいただきました。この場をお借りして厚く感謝申し上げます。